

# 第11分科会「里山と水循環」

水循環と生物多様性～湧水と生物の場を見て考えてみましょう～

日時：2007年5月18日 13:00～18:00

場所：千葉市緑区越智公民館

参加者：30人

## 趣旨

台地へ降った雨は地下へしみ込み、その一部は谷津頭等から湧水として出てきます。今回は、湧水、生物など周りの環境を見て体験します。専門家からは、湧水の仕組みとその保全について、NPO 団体からは、湧水を利用したの谷津田での活動についてお話をお聞きし、意見交換を行います。



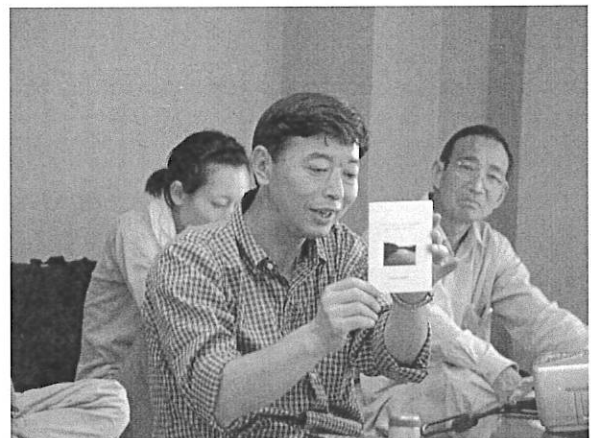
## 内容

- ・「水循環の観点から見た大藪池湧水の仕組みとその保全」  
唐 常源 氏 千葉大学園芸学部緑地・環境学科 教授

- ・「活動紹介」  
高山 齋一郎氏 プロジェクトとけ

## 目的

湧水の仕組みと谷津田での生き物について観察する。体験して学ぶことを通して湧水保全について考える。



## 現状：

### 1) 湧水

- ・硝酸態窒素が多い。
- ・湿地による硝酸態窒素の浄化効果。
- ・湧水地点の移動(開発が一因か?)。

### 2) 谷津田

- ・不耕作田が増えていく (米作りがなりわいとならない)。
- ・湧水を利用したの稲作者の高齢化(休耕田)。
- ・耕作することで生きものが豊かになる。

### 3) 現地見学して

- ・大藪池の湧水量の豊かさと 谷津田の生きものの豊かさを実感した。
- ・湿地の大切さを学んだ。
- ・台地上でのエコ農業の推進。
- ・景観からも人の気持ちの安らぐ場所である。

課題：

- ・硝酸態窒素を浄化するための湿地が少ない。
- ・水循環についてのモニタリングが必要。
- ・産廃場の対象になる危機感がある。
- ・湧水保全の仕組みづくりが必要。
- ・湧水・生物の必要性について環境学習の機会を増やす。

まとめ

美味しく安全で良好な水を利用するためには、良好な水循環を保持し「水循環系」に配慮することが必要である。

そのためには、湧水保全、生物保全について、現地を体験し共通理解し、さらに市民、地権者、企業、行政の協働による保全への仕組みづくりが必要である。

